

チャレンジ支援委員会 第1回「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1」 報告書

チャレンジ支援委員：天野、黒田、杉本、濱田、平山、家根橋

2022年9月11日 10:00-12:00 オンライン開催

「発表のタネ探し—現場の課題や実践を大会・支部集会発表につなげよう—」

2022年度第1回「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1：発表のタネ探し」（オンライン）には、14名（内、お一人は第1部のみ）の方にご参加いただきました。実践の中での「タネ」を発売したいと思いつながらテーマ探しに悩んでいる方から、すでに研究をスタートしている大学院生・元院生の方まで多様な背景の方々が集まってくれました。

まず、「第1部：『はじめての発表』の体験談を聞こう」では、昨年度第2回「タネ探し」に続き、萩原秀樹氏（インターカルト日本語学校）、米本和弘氏（東京医科歯科大学）にご登壇いただき、発表へのきっかけ、発表までのプロセス、発表することの意義について具体的な発表経験をもとにお話しいただきました。その後の質疑応答では、参加者からチャット・口頭での質問があり、登壇者のお二人から親身なご回答をいただきました。

続く「第2部：グループワーク『発表につなげるタネを一緒に探そう』」では、ブレイクアウトルームを利用して参加者3~4名の4グループに分かれ、グループディスカッションを行いました。チャレンジ支援委員のファシリテートのもと、いずれのグループもなごやかにかつ有意義な対話が進められました。グループワークの後は全体に戻り、ファシリテーターの委員からグループの様子を共有した後、無事閉会しました。前回に引き続き、閉会后に参加者に自由に使っていただけのブレイクアウトルームを準備しました。前は利用者ゼロでしたが、今回は同じグループだった3名の方がさらなる情報交換の場としてご利用してくださっていました。

参加者による事後アンケートでは、全員の方から「満足できた」「役にたった」という回答をいただきました。「恐れなくてもまずできることから始めてみようという気持ちになれました」とのコメントもあり、発表応募支援 STEP2、STEP3にも参加したいとの回答も多くいただきました。講師のお二人や委員、参加者の皆さんと「タネ」を共有することで、発表・研究へ向けて前に進む力を育む場ともなっていたようです。

今回の企画では、実践を発売にしたい、研究を進めたいと思いつながら、一人で迷っていらっしゃる方が多いことがうかがえました。同じ「タネ探し」の仲間づくりの場としても本企画を活用していただけるようこれからも取り組んでいきたいと思つています。登壇者の先生方、参加者の皆様、ありがとうございました。

